



名称は、岡山城の後ろに作られた園という意味で後園と呼ばれていましたが、「先憂後楽」の精神に基づいて造られたと考えられることから、明治4年(1871)後楽園と改められました。

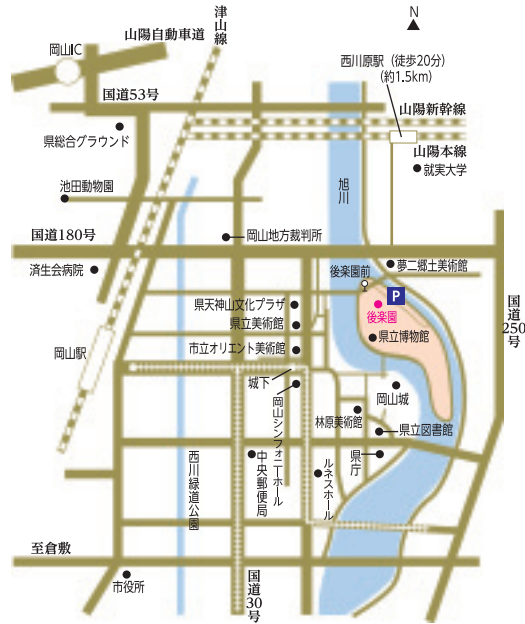
日本三名園の一つ、岡山後楽園は 世界に誇る文化財

岡山後楽園は、岡山藩主池田綱政公が家臣の津田永忠に命じて、貞享4年(1687)に着工、元禄13年(1700)には一応の完成をみました。その後も、藩主の好みで手が加えられましたが、江戸時代の姿を大きく変えることなく現在に伝えられました。また、江戸時代の絵図や池田家の記録、文物が数多く残され、歴史的な変遷を知ることができる、地方では稀な大名庭園となっています。

後楽園は、かつて藩主の静養の場、賓客接待の場として使われましたが、日をもって藩内の人々にも観光が許されていました。明治17年(1884)に岡山県に譲渡され、一般公開されました。昭和9年(1934)の水害、昭和20年の戦災では大きな被害を被りましたが、江戸時代の絵図に基づいて復旧をおこないました。昭和27年には文化財保護法による「特別名勝」に指定され、後世に伝える歴史的な文化遺産として維持管理にあたっています。



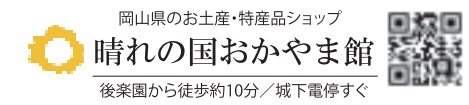
★★★★
岡山後楽園は
ミシュラン・グリーン
ガイド・ジャポンで
三つ星評価取得



- 岡山ICから車で20分(約8km)
- JR岡山駅から徒歩25分(約1.8km)
- JR岡山駅から路線バス約10分～15分
後楽園口(東口)バスターミナル1番乗り場
- 後楽園直通バス
・ 後楽園ノンストップバス(岡電バス)
・ 岡山後楽園バス(宇野バス)
- 「藤原団地」行き→「後楽園前」下車すぐ(岡電バス)
- JR岡山駅から市内電車東山行きで4分…「城下」下車徒歩10分
- JR岡山駅からタクシーで約10分(約1.8km)

岡山後楽園

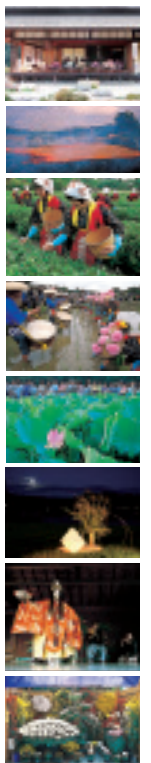
〒703-8257 岡山市北区後楽園1-5
Tel 086-272-1148 Fax 086-272-1147
<https://okayama-korakuen.jp/>



令和4年11月作成

四季催事

- 冬**
1月1日～3日 初春祭
2月上旬 芝焼き
2月下旬 松のこも焼き
- 春**
3月2日 開園記念日
4月第一日曜日 御神幸
4月下旬 栄西茶会
5月第三日曜日 茶つみ祭
5月下旬 初夏の延養亭特別公開
- 夏**
6月第二日曜日 お田植え祭
7月第一日曜日 観蓮節
8月 夏の幻想庭園
- 秋**
旧暦8月15日 名月観賞会
10月下旬 松のこも巻き
10月下旬 秋の延養亭特別公開
10月下旬～11月中旬 菊花大会
11月3日 後楽能
11月下旬 秋の幻想庭園



- 開園時間**
3月20日～9月30日 午前7時30分～午後6時
10月1日～3月19日 午前8時～午後5時
●入園は開園時間の15分前までとなります。
- 入園料**
大人 (15歳以上65歳未満) 410円
中・小学生は除く
小人 (小・中学生) 140円
シニア (65歳以上) 140円
団体 (20人以上) 2割引
(高校生以下 無料)
※試行中。今後変更になることがあります。
- 共通入園料**
後楽園・県立博物館 大人520円
後楽園・岡山城 大人640円
後楽園・岡山城・林原美術館 大人1,040円
●休館日、特別展開催中(準備期間を含む)は発売を中止します。
- 年間パスポート**
大人2080円 小人830円
65歳以上830円
- 駐車料金**
普通車 1時間 100円
バス 1日1回 620円

特別名勝

岡山後楽園



夏

- 9 **流店** 亭舎の中央に水路を通し、中に美しい色の石を配した、全国でも珍しい建物となっています。かつては、藩主の庭廻りの時に休憩所として使われ、簡素なたたずまいを伝えています。
- 7 **廉池軒** 園内に点在する亭舎の中で、池田綱政が最も好んで利用していたものです。廉池軒からの眺望は、水の景色に優れています。
- 10 **八橋** 八橋に添えてカキツバタが植えられています。この組み合わせは『伊勢物語』の「東下り」にちなんだものです。
- 8 **唯心山** 池田綱政の子、継政が作らせた約6mの築山で、園内が見渡せます。ツツジの咲く頃は絶景となります。

曲水 昔は旭川の約4km上流から対岸まで引いた後楽園用水を利用していたが、今は伏流水をくみ上げています。その水を池や滝に上手に利用し、優れた水の景色を作り上げています。

11 **花交の池** 花交の池周辺は、築庭当時はヤマザクラや花木を中心とした景色でした。花交の滝に花が映えて美しい様子を詠んだ和歌も残っています。園内を巡ってきた曲水の水は、この池から旭川に戻っていきます。



- 12 **茶祖堂** 幕末の家老の下屋敷にあった利休堂を、明治20年頃に移築したものです。戦後再建され、岡山の生まれで「茶」を日本に伝えた栄西禅師と一緒にまつられたことから「茶祖堂」と呼ばれるようになりました。
- 14 **千入の森** モミジが100本近くあります。春の新芽の芽吹き頃と、錦を織りなす秋の紅葉は絶景。園内名勝の一つとなっています。
- 13 **梅林** 早春、他の花に先駆けて、紅白、一重、八重と約100本の梅が咲き、香りをただよわせます。
- 15 **井田・井田のハス** 井田は、かつて園内に広がっていた田畑のなごりで、中国周時代の田相法にならひ幕末に形作られたものです。2000年の時を経てよみがえった大賀ハスは6～7月頃が見頃です。

秋

三百年の歴史が息づく後楽園

岡山後楽園は、江戸時代を代表する大名庭園の一つです。延養亭や能舞台を中心とした亭舎、園内各所に置かれた茶室や祠には、歴代藩主の思いが込められています。広い芝生地や池、築山、茶室が園路や水路で結ばれ、歩きながら移り変わる景色を眺めることができるよう工夫された回遊式庭園です。

流店と花菖蒲畑

唯心山の夕景



- 16 **茶畑** 美しい丸刈りの列が続く茶畑。茶葉はやや苦みの強い古種です。
- 17 **慈眼堂** 慈眼堂は池田綱政が藩内の平安と池田家の安泰を願って建立した観音堂です。今は空堂となっていますが、江戸時代には歴代藩主が厚く信仰していました。
- 18 **沢の池** 園内で一番大きな池で、中には島茶屋のある中の島、釣殿のある御野島、白砂青松が美しい砂利島があります。

- P 駐車場
- 売店・土産・茶屋
- 公衆電話
- 鶴舎
- トイレ
- 食事処
- タクシー乗場
- 多目的トイレ
- コインロッカー
- バス停

春

- 1 **延養亭** 藩主が後楽園を訪れた時の居間として使われました。沢の池、唯心山、借景の操山と、園内外の景観が一望できる、後楽園の中心的建物です。
- 2 **能舞台** 能に熱心であった池田綱政は優れた舞手でもあり、能装束の名品を数多く残しています。時には、藩内の人々が拝見を許されることもありました。現在の建物は戦後再建されたものです。
- 3 **二色が岡** 築庭当時は、春はサクラ、秋はモミジで彩られた林でした。戦後に杉の木立となり、市街地にあっては珍しく、野鳥が多く飛来する場所となっています。
- 4 **花葉の池** 東には花葉の滝があり、南西岸には元禄時代初期に巨岩を九十数個に割って運び、元の形に組み上げた「大立石」があります。6～8月頃には白いハス「一天四海(通称大名ハス)」が見頃となります。
- 20 **馬場・弓場** 後楽園は藩主の楽しみ場としてだけでなく、文武両道を怠らぬよう武芸の場も設けられました。家臣が武芸の上達ぶりを披露する行事も行われ、藩主は観騎亭や観射亭からご覧になりました。

芝を大量に使った庭

日本に広く自生している野芝を使った、明るく広々とした庭園です。築庭当時、芝は沢の池西側の延養亭から見える範囲にだけ使われ、園内の大半は田畑でした。園全体に使われたのは明治以降のことです。

- 全体面積 144,000㎡
- 唯心山 高さ約6m
- 芝生面積 19,600㎡
- 曲水全長 約640m

冬

沢の池の雪景色